

# 日本産業カウンセリング学会第13回大会 研修会のご案内

## 1. 日時・会場

(1) 日時 : 2008年10月24日(金) 9:30~16:30 (9:00~受付開始)  
 半日コース 3時間 午前9:30~12:30 / 午後13:30~16:30  
 一日コース 6時間 午前9:30~午後16:30

(2) 会場 : きゅりあん(品川区立総合区民会館)  
 〒140-0011 東京都品川区東大井 5-18-16  
 JR京浜東北線・りんかい線・東急大井町線 大井町駅下車2分  
研修会の会場と大会会場が異なりますので、ご注意ください



### <交通のご案内>

JR 東京駅より  
 京浜東北線 大井町駅まで約15分

JR 品川駅より  
 京浜東北線 大井町駅まで約3分

羽田空港より(浜松町/天王洲アイランドで乗換)  
 京浜東北線・りんかい線経由  
 大井町駅まで約40分

<http://www.shinagawa-culture.or.jp/curian/>

## 2. 研修コース一覧

	コース	タイトル	講師
1日 コース	A	生涯発達とライフサイクルの臨床心理学	宮城 まり子(法政大学)
	B	産業臨床学 実践経験を通してその着眼の意味を考える	川上 範夫(奈良女子大学)
午 前 コ ー ス	C	障害者職業リハビリテーション・カウンセリング	望月 葉子 (独)高齢・障害者雇用支援機構
	D	能力開発とキャリア・カウンセリング	桐村 晋次(法政大学)
	E	マイクカウンセリング 技法の定義を明確にする	楡木 満生(立正大学)
	F	若年無業者に対する支援の最前線	長須 正明(東京聖栄大学)
	G	休業中の勤労者の職場復帰	片受 靖(立正大学)
	H	予防とストレスマネジメント	小澤 康司(立正大学)
午 後 コ ー ス	I	産業カウンセラーの環境への介入	木村 周(東京成徳大学)
	J	キャリア・カウンセリングと内的キャリア	今野 能志(行動科学研究所)
	K	論文の書き方	森田 一寿(目白大学大学院)
	L	グループワーク	村瀬 旻(立正大学)
	M	精神科におけるうつ病の復職支援について - リワークプログラムと外来診療 -	橋本 光則 (財団法人神経研究所附属晴和病院) 宮岡 佳子(跡見学園女子大学)
	N	経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス ~ 企業、人材、働き方のあるべき姿 ~	木谷 宏(学習院大学)

### 3. 研修内容

#### A:「生涯発達とライフサイクルの臨床心理学」 法政大学 宮城 まり子

誕生から死に至るまで、人間の発達と各ライフステージにおける心理特性と発達課題とは何か。また、その発達課題が達成できない場合には、臨床心理学的にどのような問題が生じるのか。人間のライフサイクルと発達課題について、幼児期から青年期、中高年にいたるまでを概観します。

#### B:「産業臨床学 実践経験を通してその着眼の意味を考える」 奈良女子大学 川上 範夫

産業カウンセリングの実践課題は、キャリアカウンセリング、メンタルヘルスカウンセリング、キャリアコンサルティング、ライフキャリアカウンセリング、ライフケアサポート、企業経営コンサルティング、人事管理マネージメントと多岐にわたっている。それぞれの実践課題にはその背後に「社会と人間との関係性についての理解」「人間関係や組織が変容していく過程についての仮説的理解の構築」「変容仮説実現のための実践能力の確保」が裏打ちされていなければならない。そして専門家として実践を行っていくにはそれぞれの方法の持つ独自の理論技法体系を理解した上で、自分自身が果たしうる役割とその限界を明確に点検できるのでなければならない。これを「リミットセッティング」のセンスという。このリミットセッティングの意味を明確化しながら実践を展望していく試みを「産業臨床学」と呼ぶ。昨今の抑うつ問題、発達障害問題への取り組み例をもとにして議論してみたい。

---

#### C:「障害者職業リハビリテーション・カウンセリング」

(独)高齡・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター  
主任研究員 望月 葉子

職業リハビリテーション・カウンセリングとは、障害のある人がより現実的に職業生活への第一歩を踏み出すために、求職活動で成功するために、また、職場での円滑な適応・定着を実現するために、体験的な学習を促す相談活動である。すなわち、自分自身について知ることと同時に、職業に就いて働くことの意義を知ること、そして、将来に向けた生活設計を具体化することなどへの支援が中心となる。

この研修では、わが国の障害者雇用制度並びに職業リハビリテーションを概観し、職業リハビリテーション・カウンセリングの機能と役割にふれて話題提供を行うこととする。

#### D:「能力開発とキャリア・カウンセリング」 法政大学 桐村 晋次

終身雇用や年功序列型処遇制の特徴をもつ日本型経営が変化してきている。グローバル化や技術革新等経営環境の変化が続き、いっぽうで業績重視の人事考課や組織のフラット化(課制を廃止し、部長が直接に部下の管理をする方式)によりOJTの基盤が揺らぎ始めている。

企業は従来の社内教育から「従業員自律・企業支援型人材育成」への転換を進めており、従業員自身が自律的に働き方や生き方を探して「なりたい自分」に向けて能力開発を推進することを支援するキャリア・カウンセリングが注目を集めている。キャリア・カウンセリングによる個人・組織の活性化について考えてみたい。

#### E:「マイクロカウンセリング 技法の定義を明確にする」 立正大学 楡木 満生

あなたは、「感情の反射」と「感情の反映」の区別が出来ますか。

どの理論や療法であれ、すべてのカウンセラーにとって マイクロカウンセリングは基本中の基本であります。どの流派のカウンセラーもマイクロカウンセリングはかならずカウンセラー養成の中で出会うはずですが、しかし、広範囲に発展していく中でいろいろな技法の考え方が派生してきて、どれが原点かわかりにくくしております。

この研修会では、技法の定義をしっかりと身につけ、どのようなときにどのような用途に用いればよいのか考えていきたいと思っております。あなたも技法を有効に使えるカウンセラーになろう。

#### F:「若年無業者に対する支援の最前線」 東京聖栄大学 長須 正明

さまざまなデータから若年無業者の実態を認識することがこの研修の出発点である。「働いていない」「働けない」「働かない」理由は多様であるが、その背景には共通の要因が考え得る。またそこから支援の内容・方法も見えてくる。若年無業者に対する支援は、広く若者の自立支援である。就業は最も基本的には「社会とのつながり」であり、自立した生活の基本である。若者の自立支援では「社会構造」「福祉システム」の理解が不可欠である。この研修では「カウンセリング」とともに「ソーシャル

ワーク」の視点を強く意識して、データに基づき、実際の事例を示しながら、包括的若者自立支援 (Youth Work) にキャリアカウンセラー (キャリアコンサルタント) はどのように貢献できるかを参加者と共に考えてみたい。

### G: 「休業中の勤労者の職場復帰」 立正大学 片受 靖

最近、メンタルヘルス不全で休業する勤労者が多く見られます。職場復帰をする際に、休業中に職場で軽作業等を行い、調子確かめてから復職の可否を検討する、いわゆる「慣らし勤務」の制度を設ける会社等が増えています。

「慣らし勤務」をする場合、職場はどのような点に配慮する必要があるのか、産業医や社内のカウンセラーとはどのように連携を取るのが望ましいか等、「慣らし勤務」について検討を加え、スムーズな職場復帰を実現するための職場の役割について考えてみたいと思います。

### H: 「予防とストレスマネジメント」 立正大学 小澤 康司

最近、うつ病やメンタルヘルスカケアを必要とする人達の増加や過労死や自殺者などの増加が問題となっている。企業においてはメンタルヘルス対策や復職支援プログラムの充実などの取り組みがなされているが、問題が発生してからケア活動を充実するのでは不十分であり、問題が発生を未然に防ぐ予防的なケアが必要といえる。予防的ケアとして、ストレスマネジメントは有効といえる。変動の激しい不確実な社会を生きること自体が大きなストレスである。ストレスマネジメントを理解し、本人が生涯に渡りセルフケアを実施すること、企業は快適な職場づくりを目指すことが必要といえよう。

---

### I: 「産業カウンセラーの環境への介入」 東京成徳大学 木村 周

- 産業カウンセラーは、「快適な職場づくり」にどうかかわるのか -

WHO / ILOは、もともと健康とは「身体的、精神的かつ社会的に完全に良好な状態にあることであり、単に疾病または虚弱でないことをいうのではない」と定義している。近年さらに「組織の健康」という概念を重視し、組織の効率に単に利潤、生産性、成果などだけで測られるべきではなく、労働者の健康や満足をもたらし、さらには「労働と家庭、地域活動とのバランス」を考慮した「新しい健康観」を提示している。

働く人にとって「快適な職場とは」、「カウンセラーはそれにどうかかわればいいのか」、5年の歳月を経て完成した「快適職場調査(ソフト面)」尺度を使用しながら「快適職場づくり」の概念と実際を講述する。

### J: 「キャリア・カウンセリングと内的キャリア」 行動科学研究所 今野 能志

キャリア・カウンセリングは、その人の人生上で遭遇するキャリア発達上の課題とどのように向き合い、どのように解決していくかを一緒に考え、支援していく過程であり、心理的な援助です。したがってまずは内的キャリアがテーマとなりますが、日本においては内的キャリアについての認識が薄く、外的キャリアに偏っている傾向が強いため内的なプロセスにかかわることがどういうことであるかが十分に理解されていないところがあります。このセッションでは、カウンセラー自身の内的キャリアの点検をしながら内的キャリアの理解を深めます。

### K: 「論文の書き方」 目白大学大学院 森田 一寿

学会誌に論文を投稿したり、学会で研究成果を発表することは、自らの研究成果を確認し、自己成長のメルクマールになります。ご存知のとおり、本学会も学会誌「産業カウンセリング研究」を持っています。会員誰でも、何時でも投稿できます。本学会の学会誌は、査読付き学会誌で、研究業績としても高い評価を受けられます。

近年、研究業績の点数がいろいろなところで、問われるようになって来ました。学会誌への投稿や学会で論文を発表したいと考えている方々に、論文をまとめるための基本的なポイントとその作成方法や投稿の手続きなどについて解説します。論文を書いて学会誌に投稿したいと考えている方に参加していただき、今後活発に論文を投稿していただきたいと思っています。

### L: 「グループワーク」 立正大学 村瀬 旻

現場でのさまざまな問題の改善に、グループ・ワーク(グループで話し合うこと・グループで課題を行うこと)をもっと取り入れてもよいのではないかと私は思っています。お互いに話し合うことは、生きている私たちにとって基本の“き”だからです。

研修会では、グループ・ワークとはどのようなことかを解説し、グループ・ワークの進め方について考え、短い時間ではありますが、参加者同士で実際に話し合う機会を持ちたいと思います。(参加者の人数によって研修会の進め方を変えます。最少催行人数6名。)

## M:「精神科におけるうつ病の復職支援について - リワークプログラムと外来診療 -

神経研究所附属晴和病院 橋本 光則 / 跡見学園女子大学 宮岡 佳子

近年のうつ病の増加に伴い、うつ病で休職を選択せざるを得ない勤労者も増加している。このような患者において、病状が改善し始め、休職から職場復帰へ至る回復期は、治療上細やかな配慮と支援が必要な時期である。晴和病院では週 3 日、休職中のうつ病患者を対象としたデイケア(リワークプログラム)を行っている。うつ病の回復期においてスムーズな職場復帰を図ることを目的とし、プログラムには会社で行うような活動を組み入れている。研修会では、リワークプログラムにおける支援、それを終了し実際に職場復帰を果たした後の外来診療における支援について解説する。

## N:「経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス ~企業、人材、働き方のあるべき姿」

学習院大学経済経営研究所所員  
経済学部 特別客員教授 木谷 宏

経営戦略として注目されている「ワーク・ライフ・バランス(WLB)」については、昨年12月に政府より「WLB 憲章」および「行動指針」が公表され、本格的な WLB 時代の到来を迎えている。

本講義では、WLB という「働き方のあるべき姿」に至った背景を CSR という「企業のあるべき姿」とプロフェッショナルという「人材のあるべき姿」と重ね合わせることにより、具体的な解説を試みる。併せて 2004 年から 3 年間活動した WLB 塾(資生堂他 33 社)の活動内容を各社の取組み事例も含めて紹介し、WLB 塾と学習院大学経済経営研究所が共同開発した「WLB 評価指標(WLB-JUKU INDEX)」の内容と分析結果についても説明を行う。

## 4. 申し込み等について

### < 1 > 申し込み方法

大会参加申込書および返信はがきの研修会の欄に、上記研修コース一覧よりご希望のコース記号をご記入の上、事務局へご送付ください。その後事務局にて参加費の入金確認が終了次第、返信用ハガキにて受講決定コースをお知らせいたします。なお、一旦ご入金いただいた参加費につきましては当日参加が困難になった場合などでも返金いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

1日コースを希望される方      ご希望の研修コース(A/B)を第2希望までご記入ください。

午前/午後別々の研修を希望される方      午前の研修コースをC~Hの中で、午後の研修コースをI~Nの中でそれぞれ第3希望までお選び下さい。

午前または午後のみ参加を希望される方      研修コースC~Nまでの中から第3希望までお選び下さい。

### < 2 > その他

お申し込みの順に受付とします。ご希望のコースが申込多数の場合は第2希望・第3希望のコースへ振り替えさせていただきます。

研修会参加の申し込み期限は大会参加と同じく6月30日(月)となっておりますので、期限内に手続きを済ませてください。

申し込み後のコース変更につきましては、受付致しかねる場合がありますので、ご了承ください。

受講教室につきましては、プログラムにてご案内いたします。

## 大会準備事務局(大会に関するお問い合わせ先)

立正大学 心理学部 小澤研究室

TEL & FAX: 03 - 5487 - 3276    〒141 - 8602 東京都品川区大崎4-2-16

e-mail: [jaic-taikai@ris.ac.jp](mailto:jaic-taikai@ris.ac.jp)

事務局が不在の場合もありますので、できるだけメールまたはFAXにてお問い合わせください。